

平成22年度
全国学力・学習状況調査

大仙市分析結果

I 実施の状況

- | | | |
|---|------|---|
| 1 | 実施目的 | 児童生徒の学力維持向上及び学習状況の把握 |
| 2 | 実施学年 | 小学校6年生、中学校3年生 |
| 3 | 実施教科 | 国語、算数・数学 |
| 4 | 調査内容 | ①教科に関する調査（国語、算数・数学）
A：「知識」など基礎学力に関する問題
B：思考力など「活用」に関する問題
②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
・児童生徒に対する調査 ・学校に対する調査 |
| 5 | 実施期日 | 平成22年4月20日（火） |
| 6 | 調査対象 | ○抽出調査対象校
全国（国公立小学校） 5,453校（抽出率25.3%）
秋田県公立小学校 101校（抽出率40.2%）
全国（国公立中学校） 4,521校（抽出率41.5%）
秋田県公立中学校 69校（抽出率52.7%）
○希望利用校
全国（国公立小学校） 10,245校（希望利用対象校の63.5%）
秋田県公立小学校 150校（希望利用対象校の100%）
全国（国公立中学校） 3,648校（希望利用対象校の57.3%）
秋田県公立中学校 62校（希望利用対象校の100%） |

Ⅱ 教科に関する調査結果

※抽出調査であり、平均正答率は誤差も含めた数値の幅(推計値の95%の信頼区間〔棒グラフ上部「エ」〕)を踏まえる必要があるとの国の分析方法に準じ、市としての分析を行った。

1 概要

- 本市は、小・中学校ともに各教科で全国の平均正答率を4割以上上回っている。また、小学校国語B、算数A、Bは県平均正答率を上回り、小学校国語A及び中学校のすべての教科で県平均正答率とほぼ同程度であることから、おおむね良好な状況を維持していると考えられる。
- 小学校においては、知識・技能等を活用して課題を解決する力をはぐくむ授業改善が進んでいると見ることができると見られる。
- 中学校においては、基礎的・基本的な内容の習得の徹底と、論理的に記述する力の一層の向上を図る必要がある。

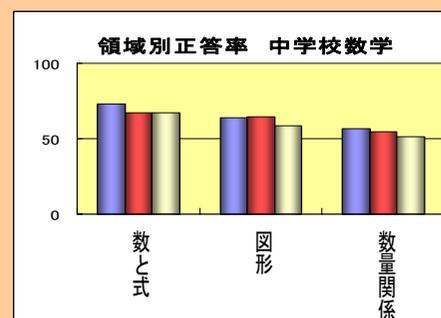
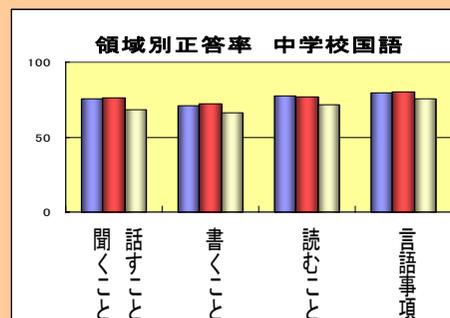
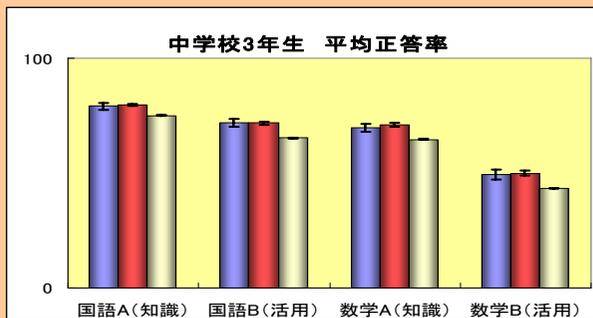
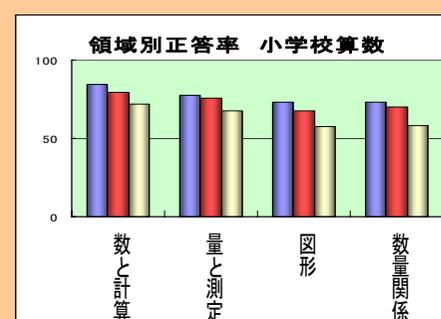
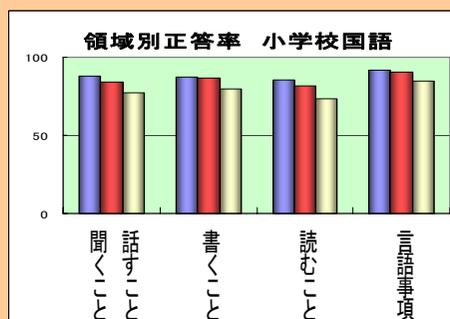
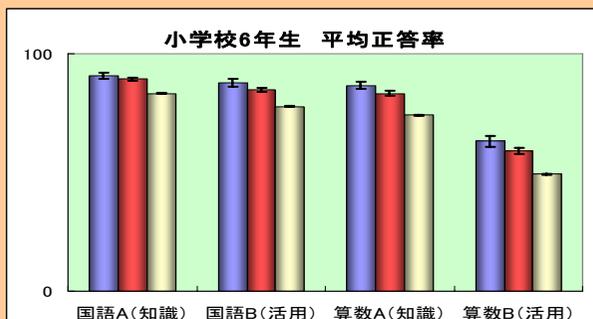
結果

【資料】教科別・領域別平均正答率の状況

小学校



中学校



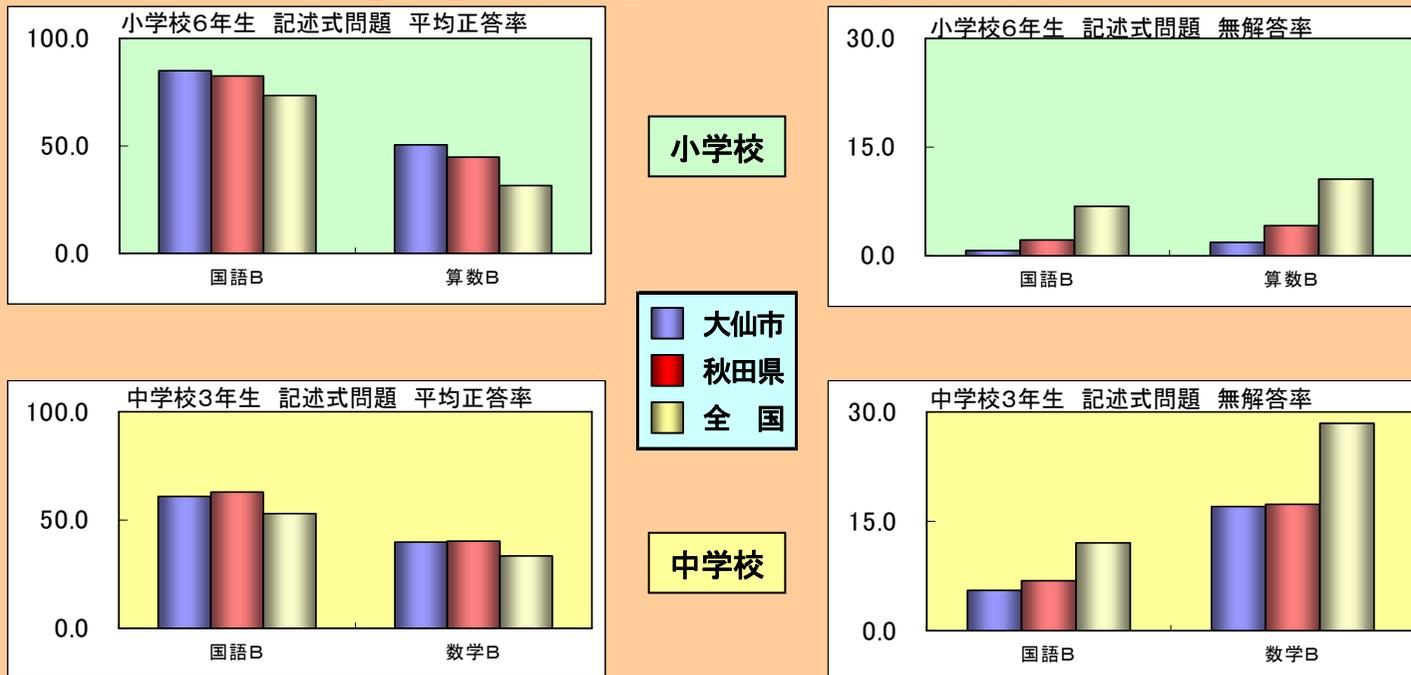
Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

1 傾向

◎学力向上の基盤となる基本的な学習習慣が定着し、児童生徒は最後まで問題に粘り強く取り組んでいる。

- 無解答率が低い。
- 小学校は記述式の問題でも正答率が高い。中学校は全国を上回っているが、県平均をやや下回っている。
- 学力調査結果がよくなかった児童生徒の割合が相対的に少ない。

【資料】 記述式問題 平均正答率・無解答率の状況



Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

2 要因

※昨年までの状況がそのまま維持されているものと考えられる。

① 児童生徒が学習に集中し、落ち着いてじっくり考えることができる環境が構築されている。

- ・児童生徒は基本的な学習習慣を身に付け、進んで意見を書いたり、発表したりするなど意欲的に学習に取り組んでいる。
- ・難しい問題にも時間いっぱい取り組んでいる児童生徒が多い。

② 児童生徒に基礎的・基本的な事項の習得が図られている。

- ・基礎テストや、放課後・長期休業等を活用した補充的学習を実施している。
- ・ティームティーチングや少人数指導などの効果が表れている。

③ 各教科において創意工夫を生かした特色ある教育活動が展開されている。

- ・継続的な読み聞かせや読書活動を推進している。
- ・小学校における教科担任制の導入、幼・小、小・中、中・高、小・高など異校種間の連携・交流などにより学習活動の充実を図っている。

④ 県や市が各学校の取組を支援する施策を推進している。

- ・文部科学省指定事業や少人数学習推進事業、算数・数学学力向上推進班による単元評価テストなど、国や県の施策を積極的に活用している。
- ・学校支援地域本部事業などにおいて、地域の人材やボランティア等との連携を推進している。
- ・市PTA連合会を通じて、学力向上に向けた取組について保護者への理解・啓発を図っている。
- ・市独自の施策を推進している。
 - 心ふれあうさわやか大仙事業「中学生サミット」（あいさつ、生活習慣の確立、環境教育の推進）
 - 秋田大学、国際教養大学、県立高等学校等との交流・連携
 - 体験的学習推進事業
 - 学校生活支援員、複式学級支援員、日本語指導支援員等の配置
 - 学力向上推進委員会の開催（学力調査結果分析、改善の視点提示、フォローアップシート作成）
 - 市教職員研究集会、職務別研修会等の開催
 - 学校訪問の実施（教育委員等による学校訪問、指導主事訪問 など）

Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

3 課題

- ①「知識・理解」に関する問題については、中学校国語の「書くこと」「言語事項」と中学校数学の「図形」で、国及び県の平均正答率を下回る問題があり、基礎的・基本的な内容の習得の徹底を図る必要がある。
- ②「活用する力」は全国の結果より良好であるが、小学校では国語、算数共に平均正答率の学校間格差が40～80%の問題がある。中学校数学では、平均正答率40%未満の問題が14問中4問(H21:15問中1問)に増加している。
- ③過去3回の調査結果から課題としてきた内容については、フォローアップシートの有効活用など授業改善に向けた取組を一層推進する必要がある。

③ 次の文章は、明治時代に書かれた「消しゴム」に関するものである。この文章をよみ、その内容について答えなさい。

消しゴムについて

1 何からできているのか？

2 どうやって作るのか？

3 どうして消せるのか？

4 ケースは必要なのか？

消しゴムの原料

消しゴムの製造方法

字が消える仕組み

ケースの役割

課題が見られた問題例 (H22年度調査)

【中学校国語B 2 三】
 全国平均正答率 45.6%
 県平均正答率 55.7%
 【中学校国語B 3 二】
 全国平均正答率 35.5%
 県平均正答率 39.8%

【小学校算数B 5 (2)】
 全国平均正答率 17.1%
 県平均正答率 30.7%

【中学校国語B 2 三】
 資料の修正の方法を選択し、修正の具体的なやり方とその理由を書く。
 【中学校国語B 3 二】
 本文中の表現がたとえている内容をとらえて書く。

(2) ひろしさんは、下のような定価で売られているシャツ、ズボン、くつを1品ずつ買います。



ひろしさんは、右の図のような割引券を1枚持っています。その割引券には、「1品に限り、定価の20%引き」と書かれています。



シャツ、ズボン、くつのうち、どれに割引券を使うと、値引きされる金額がいちばん大きくなりますか。上のアからウまでの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。また、その記号の商品に割引券を使うと、値引きされる金額がいちばん大きくなるわけを、言葉や式を使って書きましょう。

＝国語の課題と改善に向けて＝

■過去3回の調査結果に基づく課題

- ・資料(図表・グラフなど)から情報を読み取り、与えられた条件に応じて事実や考えを書くこと。

■H22年度の調査結果に基づく主な課題

- ・文脈を踏まえて人物関係や情景をとらえること。(小)
- ・文のつながりをとらえて、条件に応じて書くこと。(小・中)
- ・理由や自分の考えを的確に伝えること。(小・中)
- ・表現効果を読み取ったり、考えたりすること。(小・中)
- ・語句の意味、敬語、同訓異字、書写等の言語事項(中)

□主な改善策

- ・各領域の学習で言語事項の内容を生かして表現効果を考えさせ、自分の考えを目的や条件に応じてまとめる学習を進めたい。

＝算数・数学の課題と改善に向けて＝

■過去3回の調査結果に基づく課題

- ・日常的な事柄を一次関数の問題としてとらえ、判断する方法を数学的な表現を用いて説明すること。

■H22年度の調査結果に基づく主な課題

- ・二次元表に示された数の意味を考え、グラフと関連付けること。(小)
- ・図形の面積を求める過程や円柱の体積を求めること。(小・中)
- ・比例・反比例、1次関数の式やグラフに関する意味理解。(中)
- ・三角形の内角と外角の関係についての理解。(中)
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明すること。(中)

□主な改善策

- ・様々なグラフや表を読んだり書いたりする活動や、対話型の論証学習を取り入れるなどして、数学的に表現・処理する力を育成したい。

IV 学習環境に関する調査の結果

1 概要

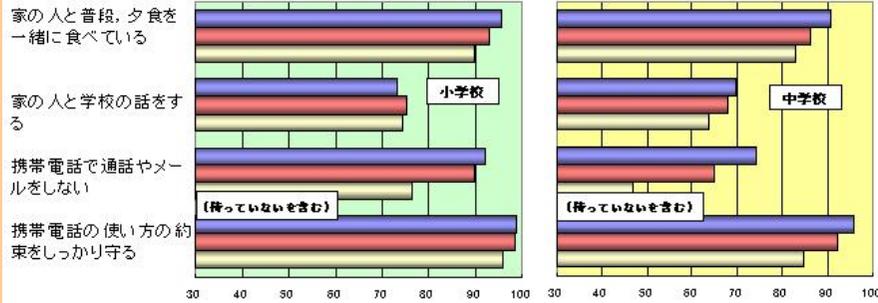
- 小・中学校共に、7割以上の項目で全国の平均を上回り、5割以上の項目で県の平均を上回っている。児童生徒はおおむね望ましい生活習慣が形成されていると考えられるが、引き続き実態を踏まえた指導に留意する必要がある。
- 今年度調査対象の児童生徒は、小・中学生共に夢や目標、規範意識や思いやり、意欲などの道徳性にかかわる質問項目において良好な状況がみられる。体験活動等を通して豊かな心がはぐくまれている成果ととらえている。
- 中学3年生（平成19年度小学6年生）の変容としては、読書、規範意識や思いやりなどの面で向上が認められる。

2 結果

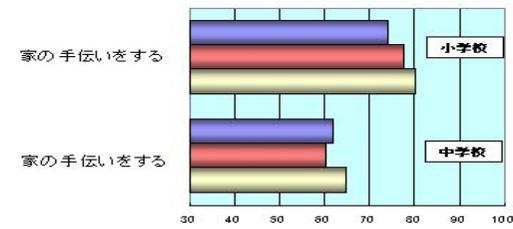
(1) 生活習慣

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

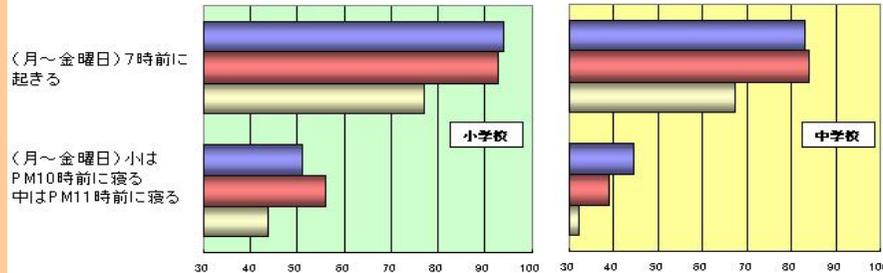
【資料3】生活習慣の様子（小・中学校）



【資料5】家の手伝い（小・中学校）



【資料4】起床・就寝時刻（小・中学校）



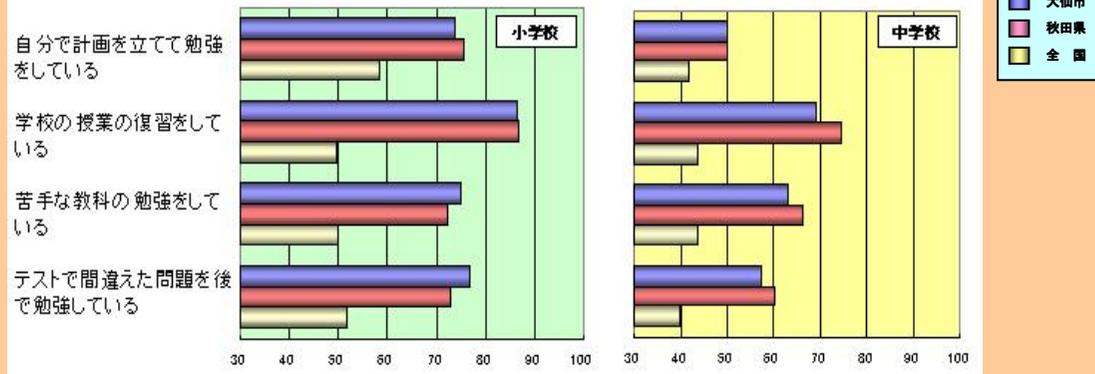
- 小学校の「家で学校の話をする」が全国や県を下回っているが、小・中共に「家族と夕食を一緒に食べる」「携帯電話を持たない、約束を守っている」が全国や県を上回っている。また、小学校は起床時刻で、中学校は就寝時刻の状況で県を上回っている。おおむね良好な家庭環境の下に、基本的な生活習慣が身に付いている児童生徒が比較的多いと言える。
- 過去3回の調査で課題となっていた「家の手伝いをする」は、中学校で昨年よりも向上している。各学校では保護者と連携して手伝いの励行を促しており、「ときどきしている」と「あまりしていない」の選択肢を謙虚に選択している児童生徒が多いとの見方もある。

IV 学習環境に関する調査の結果

2-(2) 学習習慣

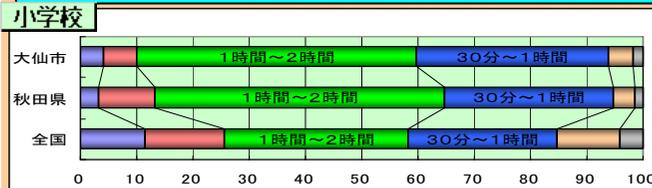
【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

【資料6】家庭学習の様子(小・中学校)

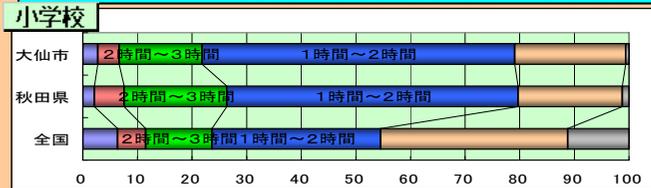


○昨年度に比べ、小学校は「1～2時間未満」が、中学校は「2時間以上」と「平日の平均学習時間」が増加している。
 ○小学生は「苦手な教科の勉強」と「間違えた問題の勉強」によく取り組んでいる。
 ○全国や県に比べ、長時間家庭学習をしている児童生徒の割合は少なく、特に中学生は、計画を立て苦手な教科の学習や宿題、復習などへの取組の改善を図る必要がある。

【資料7-1】平日の学習時間(小・中学校)

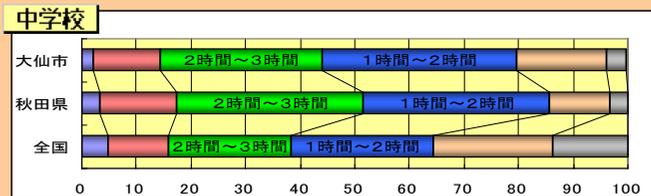
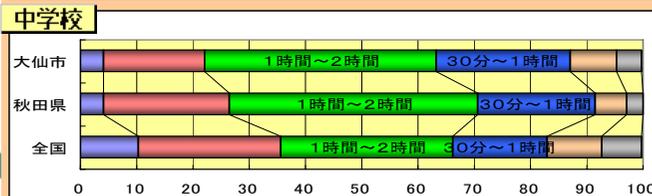


【資料7-2】休日の学習時間(小・中学校)



【資料8】平均学習時間(小・中学校) [単位:分]

小学校	平日	休日
大仙市	100	120
秋田県	100	120
全国	110	110



中学校	平日	休日
大仙市	120	140
秋田県	120	150
全国	110	120

(休日は1時間増)
 ■ 3時間以上 ■ 2~3時間 ■ 1~2時間 ■ 30分~1時間 ■ 30分未満 ■ 全くしない

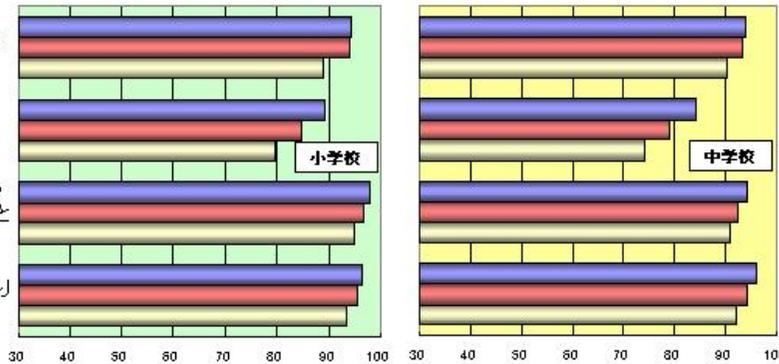
IV 学習環境に関する調査の結果

2 - (3) 規範意識

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国と比較】児童生徒質問紙調査結果より

【資料9】規範意識や思いやりの心(小・中学校)

学校のきまりを守っている
 人が困っているときは、
 進んで助けている
 いじめは、どんな理由が
 あってもいけないことだと思
 う
 人の役に立つ人間になりたい

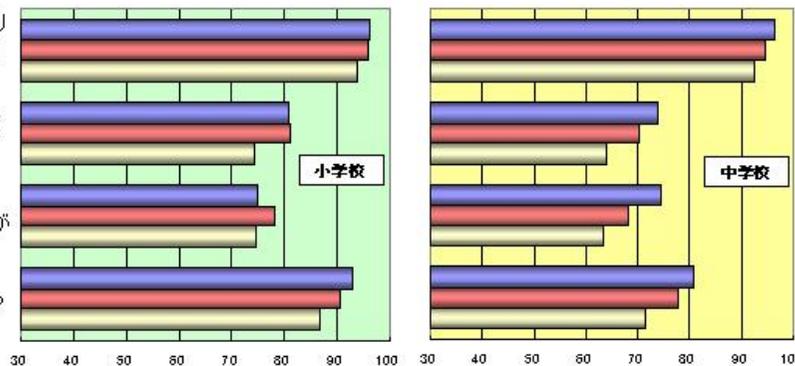


○昨年度とほぼ同様の結果となった。学校のきまりや友達との約束をきちんと守るなど、規範意識が高い児童生徒の割合が多い。また、人の気持ちを分かり、役に立ちたいなどの思いやりの心も好ましい状況にある。
 ○中学生は3年前(小6時)の調査結果に比べ、規範意識に関する項目への肯定的な回答の割合が伸びている。
 ○家庭や地域の温かいかわりの下、各学校における適切な生徒指導や体験活動をはじめとする児童(生徒)会活動等の取組の成果であるととらえている。

2 - (4) 達成感や意欲

【資料10】達成感・成就感や意欲(小・中学校)

ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある
 難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している
 自分には、よいところがある
 将来の夢や目標を持っている



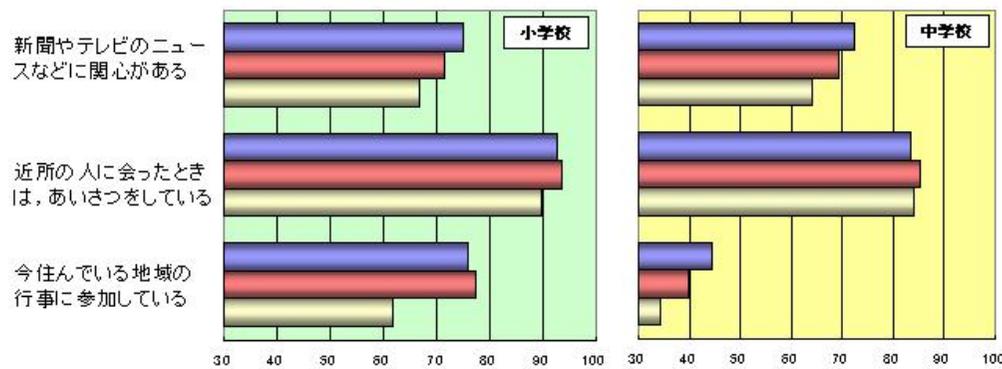
○全国や県に比べ、多くの児童生徒が達成感や成就感をもち、目標をもって挑戦しようとする意欲が高いと言える。
 ○中学生は3年前(小6時)の調査結果に比べ、「最後までやり遂げてうれしかった」「自分にはよいところがある」について肯定的な回答の割合が増加している。
 ○各校における児童生徒主体の学習活動、体験活動やキャリア教育等の充実に向けた取組の成果であるととらえている。

IV 学習環境に関する調査の結果

2 - (5) 地域への愛着

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

【資料11】地域や社会、人や行事などへのかかわり（小・中学校）



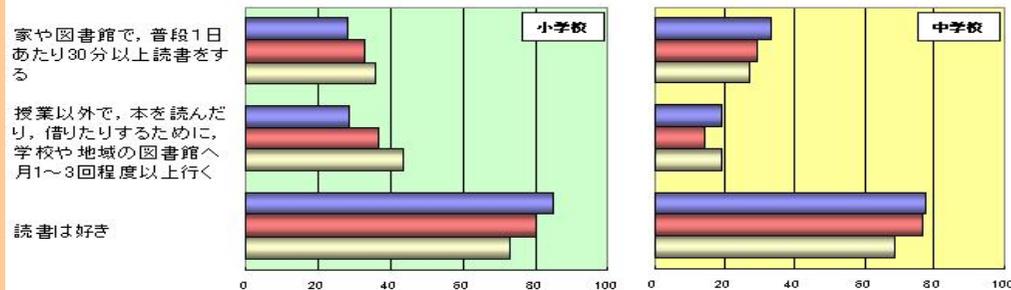
※平成22年度は「今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある」は質問項目から削除されている。

- 小・中学校共に「新聞やテレビのニュースに関心がある」と回答している割合が高い。中学生は3年前（小6時）の調査結果よりも伸びている。
- 近所の人への挨拶や地域行事への参加の状況は、小・中学校共に昨年度よりも低下している。
- 児童生徒主体の挨拶運動、地域行事の担い手としての活動は、今後とも地域とのかかわりを深めて進めたい。
- 協力的で温かい地域の教育力の一層の充実を期して、引き続き地域との連携による特色ある教育活動の推進と大仙市PTA連合会の取組の支援などを重視したい。

2 - (6) 読書習慣



【資料12】読書に関する状況（小・中学校）



- 小・中学生共に読書好きである。また、中学生の家庭での読書時間や図書館利用は、昨年度よりも伸びている。
- 小・中学校共に「一斉読書の時間」の設定は100%であり、図書館等を活用した授業の実施状況の割合も、全国や県平均よりも高い。
- 市教委は「大仙市親と子の夢を育む読書活動推進計画」を策定し、実践している。

V 学習環境と学力調査との相関

1 概要

○教科の正答率と相関が見られた児童生徒質問紙の質問項目において、本市の状況はおおむね良好である。
○昨年までに学力との相関がみられた「ゲームや携帯電話の使用」については、あまり相関がみられなくなっている。

(1) 児童生徒質問紙において、質問紙の結果と4科目の平均正答率との間に相関がみられた主な項目

【生活習慣等】

〈◎はH21年度にはなかった項目〉

〈全国・大仙市ともに相関がみられた項目〉

○朝食を毎日食べる。 ○学校に持っていくものを事前に確かめている。 ○家の人と学校での出来事について話をする。
◎ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある。(中学校) ○人の役に立つ人間になりたい。
◎新聞やテレビのニュースなどに関心がある。 ◎学校のきまりを守っている。

〈大仙市にだけ相関が見られた項目〉

◎家や図書館で30分以上読書している。(中学校国語) ◎地域の行事に参加している。(小学校)
◎友達との約束を守っている。

【学習習慣等】

〈全国・大仙市ともに相関がみられた項目〉

○自分で計画を立てて勉強している。 ○学校の宿題をしている。 ○学校の授業の復習をしている。
○苦手な教科の勉強をしている。 ○テストで間違えたところを勉強している。
○授業以外に図書館を利用する。(小学校)

【授業や調査問題への取り組み】

〈全国・大仙市ともに相関がみられた主な項目〉

○授業で自分の考えを発表している。 ○読書が好きだ。 ○数学の問題であきらめずにいろいろな解き方を考える。
○授業で習う公式やきまりのわけを理解するようにしている。 ○国語や算数・数学の問題を最後まで答えようと努力した。

V 学習環境と学力調査との相関

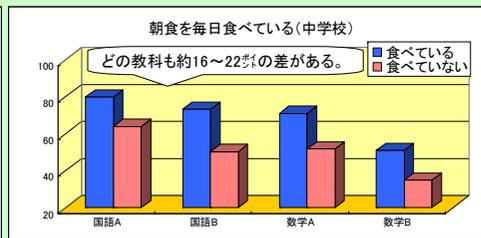
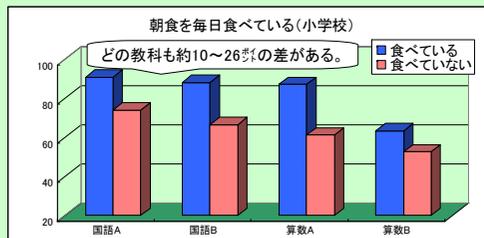
2 相関

2- (1) 家庭での生活

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)と(あまりあてはまらない+全くあてはまらない)の比較】

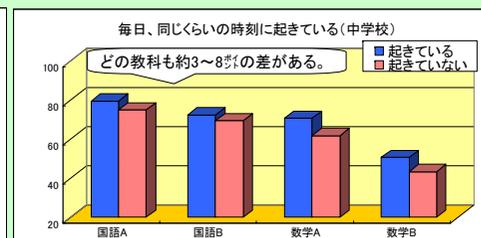
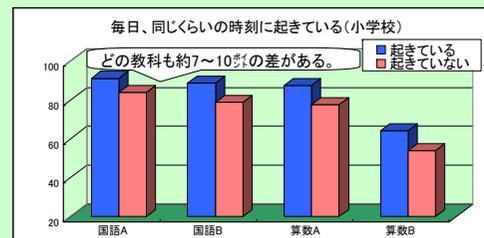
【朝食を毎日食べている】〈質問番号(1)〉

【資料13】



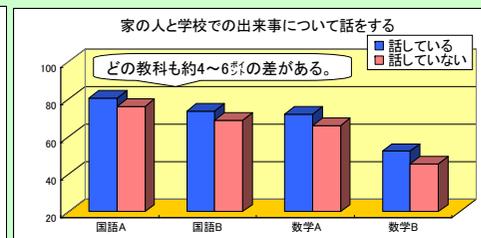
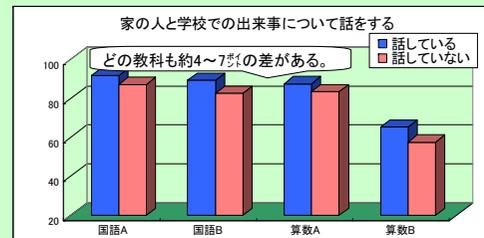
○朝食を毎日食べていますかという質問に、「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。H22年度は、中学生にも小学生と同様な差が生じている。

【毎日、同じくらいの時刻に起きている】〈質問番号(4)〉



○毎日、同じくらいの時刻に起きていますかという質問に、「起きている」「どちらかといえば起きている」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。H22年度は、小学生に大きな差がなくなっている。昨年度と同様に、就寝時刻よりも起床時刻の方が平均正答率の差に影響しているように思われる。

【家の人と学校での出来事について話している】〈質問番号(22)〉



○家の人と学校での出来事について話をしていますかという質問に、「話している」「どちらかといえば話している」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。昨年度とほぼ同様な傾向にある。

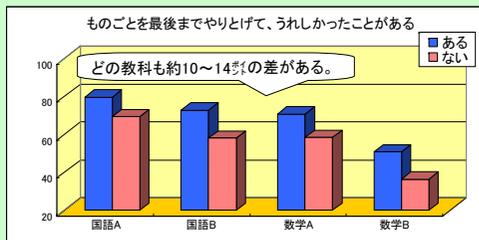
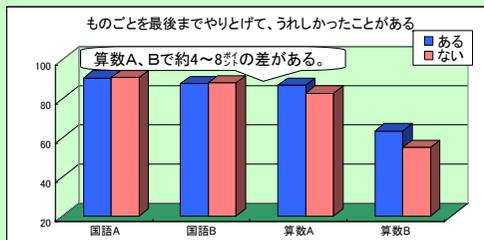
V 学習環境と学力調査との相関

2 - (2) 達成感、規範意識、友達関係等

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)と
(あまりあてはまらない+全くあてはまらない)の比較】

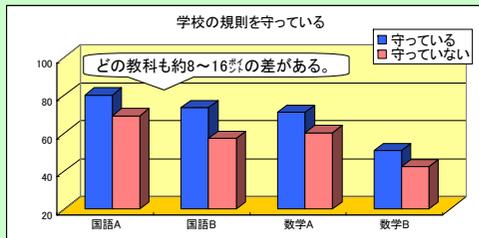
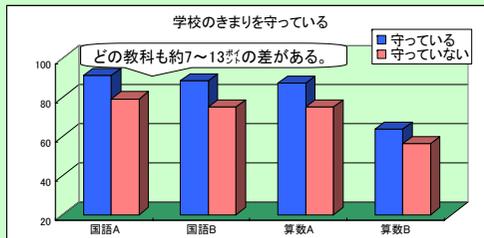
【ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある】〈質問番号(5)〉

【資料14】



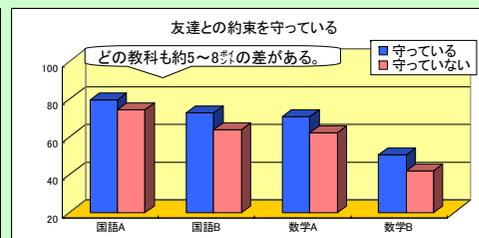
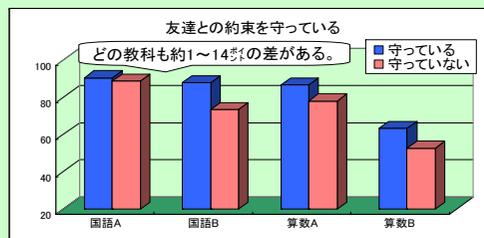
○**ものごとをやりとげて、うれしかったことがありますか**という質問に、「ある」「どちらかといえばある」と回答した児童生徒のグループの、小学生は算数で、中学生はどの教科でも平均正答率が高い。

【学校のきまり(規則)を守っている】〈質問番号(36)〉



○**学校のきまり(中:規則)を守っていますか**という質問に、「守っている」「どちらかといえば守っている」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。

【友達との約束を守っている】〈質問番号(37)〉



○**友達との約束を守っていますか**という質問に、「守っている」「どちらかといえば守っている」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。

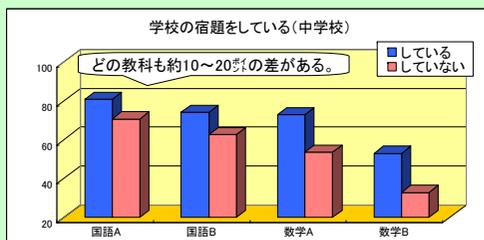
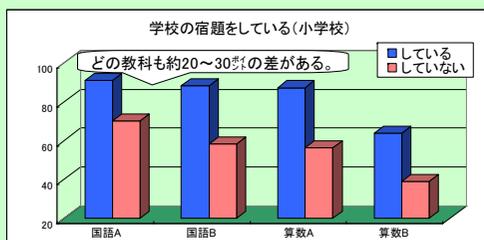
V 学習環境と学力調査との相関

2-(3) 家庭学習の習慣

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)と(あまりあてはまらない+全くあてはまらない)の比較】

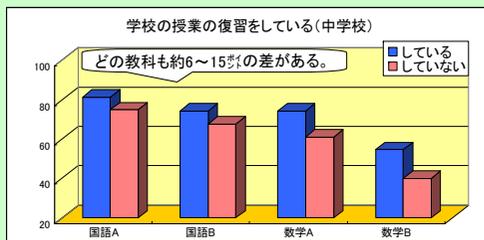
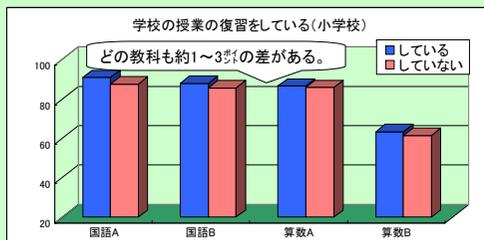
【家で学校の宿題をしている】〈質問番号(27)〉

【資料15】



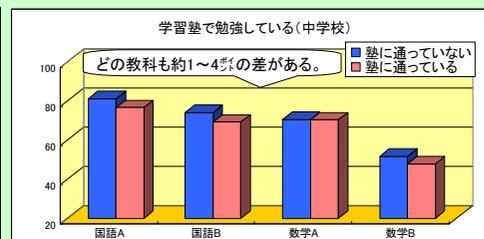
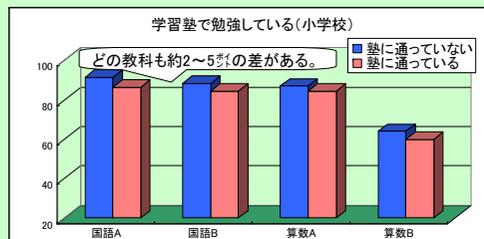
○家で学校の宿題をしていますかという質問に、「している」「どちらかといえばしている」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。H21年度までと同傾向である。

【家で学校の授業の復習をしている】〈質問番号(29)〉



○家で学校の授業の復習をしていますかという質問に、「している」「どちらかといえばしている」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。小学生は、H21年度よりも差が縮まっている。

【学習塾で勉強している】〈質問番号(18)〉



○学習塾で勉強していますかという質問に、「塾に通っていない」と回答した児童生徒が多く、平均正答率も高い。通塾にかかわらず、家庭学習にしっかり取り組んでいることによる結果と考えられる。

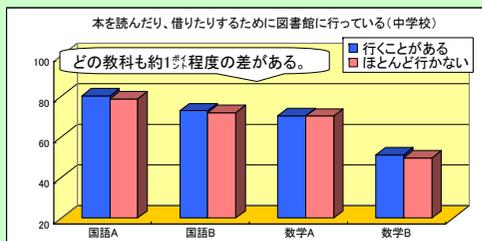
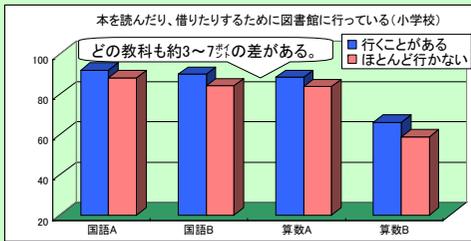
V 学習環境と学力調査との相関

2-(4) 読書習慣、ニュースへの関心

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)と(あまりあてはまらない+全くあてはまらない)の比較】

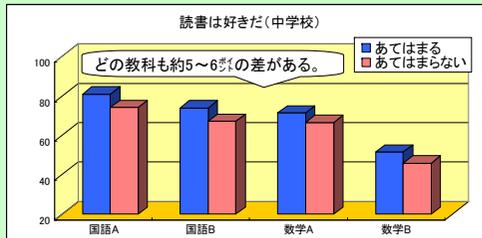
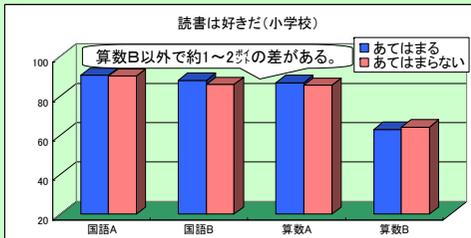
【本を読んだり、借りたりするために学校や地域の図書館に行っている】〈質問番号(20)〉

【資料16】



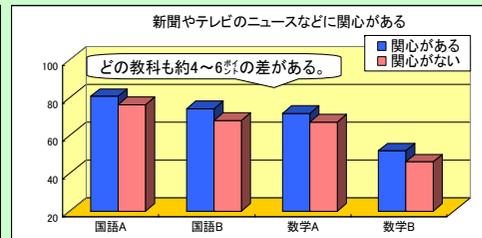
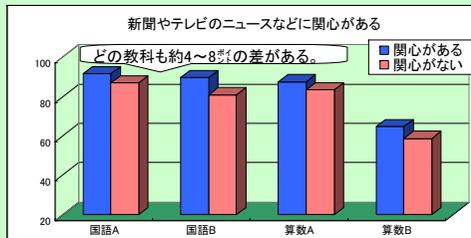
○**昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために学校や地域の図書館にどれくらい行ってますか**という質問に、「行くことがある」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。中学生の差はわずかだが、小学生では差が大きい。

【読書は好きだ】〈質問番号(55)〉



○**読書は好きですか**という質問に「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した児童生徒のグループの方が、ほとんどの教科で平均正答率が高い。小学生の差はわずかだが、中学生では差が大きい。

【新聞やテレビのニュースなどに関心がある】〈質問番号(33)〉



○**新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか**という質問に、「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。

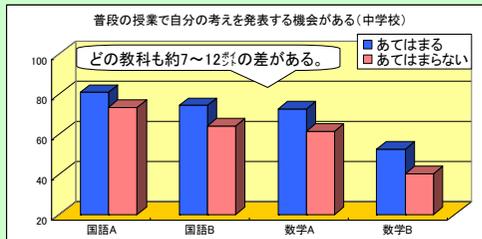
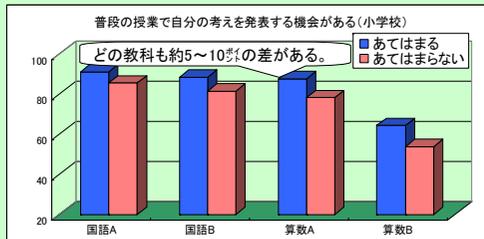
V 学習環境と学力調査との相関

2 - (5) 授業への取り組み

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)と(あまりあてはまらない+全くあてはまらない)の比較】

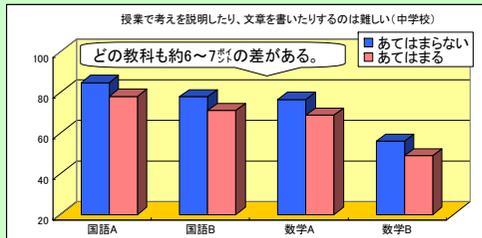
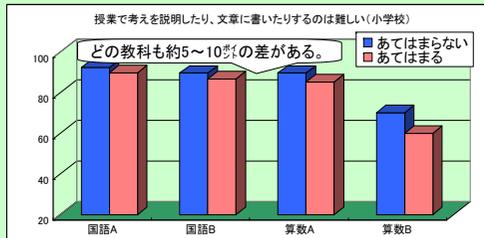
【授業で自分の考えを発表する機会がある】〈質問番号(47)〉

【資料17】



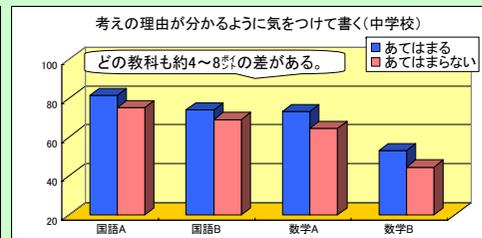
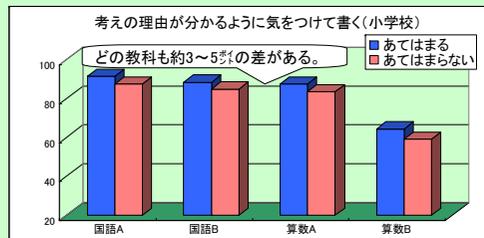
○授業で自分の考えを発表する機会があたえられていますかという質問に、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。

【授業で考えを説明したり、文章に書くのは難しい】〈質問番号(51)〉



○授業で自分の考えを説明したり、文章に書いたりするのは難しいですかという質問に、「あてはまらない」「どちらかといえばあてはまらない」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。

【自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書く】〈質問番号(59)〉



○自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書きますかという質問に、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。

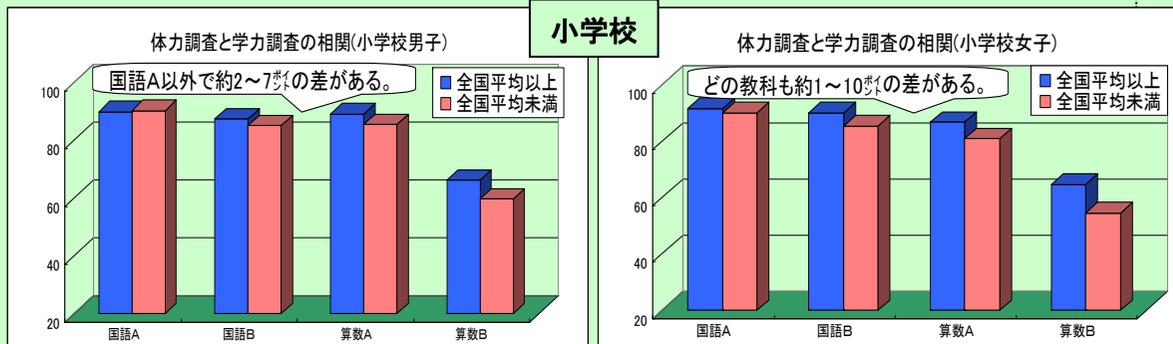
VI 体力調査と学力調査との相関

1 概要

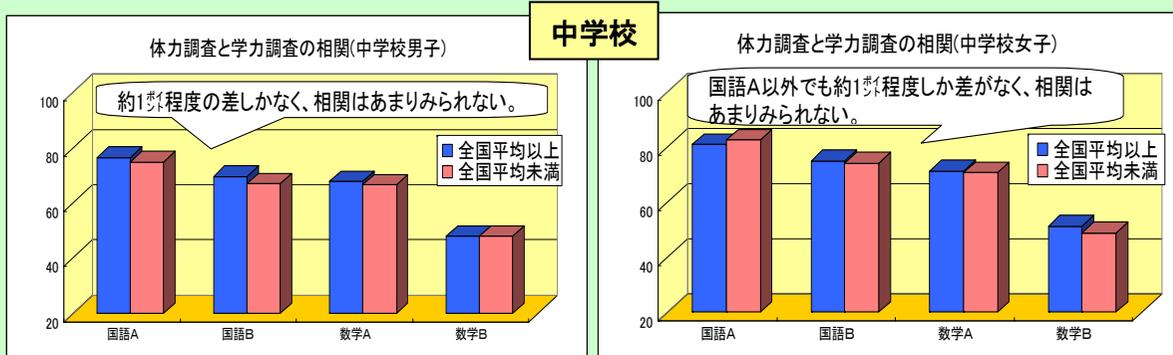
- H21年度に実施された全国体力調査とH22年度の学力調査との相関をみると、小学校の男子（国語A以外）と女子のすべての教科において、体力合計点が全国平均を上回る児童が学力調査においてもよい結果を示している。
- 小学生は、H21年度の状態よりも差は縮まっている。中学校においては、H21年度の傾向とほぼ同じで、本調査の段階では関連があまりみられなかった。

【資料18】平成21年度全国体力調査と平成22年度全国学力調査との相関

抽出率 小学校約92%、中学校約88%（※抽出調査対象校の児童生徒で両方のデータ照合ができたもの。）



○小学校は、体力合計点が全国平均を上回っている児童が、男子国語A以外の学力調査において1~10%上回っている。男女共に体力・運動能力の高い子どもは学力も高いことを示している。



○中学校は、男女とも体力調査と学力調査における関連はあまりみられなかった。